令和５年度「もも」病害虫防除暦（JAながの志賀高原ブロック）　　輸出対策

回数 散布時期 散布日 重点防除期間	IRAC FRAC コード	薬剤名	薬剤量	倍　率	散布量 （10a当り）	対象病害虫 ＊太字は重点病害虫	収穫前 使用 規制	年間 使用 回数	主な作業と注意事項及びドリフト対策
1 4月初旬 （発芽前） 月　　日	— M2	水 スプレーオイル 石灰硫黄合剤	93 ℓ 2 ℓ 5 ℓ	50 倍 20 倍	300 ℓ	カイガラムシ類 縮葉病	発芽前	—	①石灰硫黄合剤の散布出来ない場合は、トレノックスフロアブル500倍（7日前・年5回）を使用する。 ②前年ラビキラー乳剤を散布していない園は発芽前に㊞ラビキラー乳剤200倍を主幹部に手散布する。尚合剤との散布間隔を5日以上あけ ③胴枯病対策として発芽前に石灰硫黄合剤　7倍を主幹部に手散布する。
2 4月下旬 1.2分咲き 月　　日	— M1	水 展着剤（アビオンE） ICボルドー66D	98 ℓ 50 mℓ 2 Kg	2,000 倍 50 倍	300 ℓ	せん孔細菌病			①せん孔細菌病に対し効果が高いので必ず散布する。 ②ICボルドー66Dに替えて4-12式ボルドー又は、ICボルドー412 の30倍でも良い。
3 5月上旬 満開後 月　　日	— 41+25 28	水 展着剤 アグリマイシン-100 サムコルフロアブル10	100 ℓ 10 mℓ 66 g 20 mℓ	10,000 倍 1,500 倍 5,000 倍	350 ℓ	せん孔細菌病 ハマキムシ類 モモハモグリガ	60 日まで 30 日まで	2 回 2 回	①アグリマイシン-100に替えてアグレプト水和剤　1,000倍に替えてもよい。 ②アグリマイシン-100は、巨峰の開花2週間前から開花期の花穂にかかると種なし果が生ずるので注意する。 ③せん孔細菌病の多発園はトレノックスフロアブル500倍（7日前・年5回）を加用する。
4 5月中・下旬 殺虫剤 解禁後 月　　日	— 41+25 4	水 展着剤 アグリマイシン-100 ㊞ モスピラン顆粒水溶剤	100 ℓ 10 mℓ 66 g 25 g	10,000 倍 1,500 倍 4,000 倍	350 ℓ	せん孔細菌病 アブラムシ類	60 日まで 前 日まで	2 回 3 回	①アグリマイシン-100は、巨峰の開花2週間前から開花期の花穂にかかると種なし果が生ずるので注意する。 ②カメムシ発生園は㊞イカズチWDG 1,500倍（前日、年5回）を加用する。 ③この防除の散布ムラはアブラムシが発生するため丁寧に散布して下さい。 ④近隣園にりんごのつがる等うどんこ病の発生が見られる場合はストロビードライフロアブル　2,000倍　（前日　3回）を加用散布する。
5 6月上旬 月　　日	— M9 41 3	水 展着剤 ㊞ デランフロアブル マイコシールド ㊞ サイハロン水和剤	100 ℓ 10 mℓ 100 mℓ 66 g 50 g	10,000 倍 1,000 倍 1,500 倍 2,000 倍	400 ℓ	せん孔細菌病 モモハモグリガ	7 日まで 21 日まで 7 日まで	4 回 5 回 3 回	

6		水	100 ℓ						
	ー	展着剤	10 mℓ	10,000 倍					
6月中・下旬	M9	㊞ デランフロアブル	100 mℓ	1,000 倍	500 ℓ	せん孔細菌病	7 日まで	4 回	
	41	マイコシールド	66 g	1,500 倍			21 日まで	5 回	
月　　日	4	㊞ モスピラン顆粒水溶剤	25 g	4,000 倍		アブラムシ類 モモハモグリガ	前 日まで	3 回	
7		水	100 ℓ						①有袋品種はこの防除終了次第、袋掛けを行う。 ②ダニゲッターフロアブルはアスパラに対し食品衛生法の残留基準地が最小レベルの0.01ppmであるため、隣接園はドリフトに十分注意してく
	ー	展着剤	10 mℓ	10,000 倍					
7月上旬	M9	㊞ デランフロアブル	100 mℓ	1,000 倍	500 ℓ	せん孔細菌病	7 日まで	4 回	
	41	マイコシールド	66 g	1,500 倍			21 日まで	5 回	
	3	㊞ イカズチWDG	66 g	1,500 倍		シンクイムシ類	前 日まで	5 回	
月　　日	23	ダニゲッターフロアブル	50 mℓ	2,000 倍		ハダニ類	前 日まで	1 回	
8		水	100 ℓ						①無袋晩生種でせん孔細菌病の発生が、心配される園はバリダシン液剤5 500倍（7日前・年4回）を使用する。 ②7月中旬で早生種の止め防除とする場合はベルクートフロアブルを1,500倍とする。 ③ハダニ類の発生が心配される場合は、マイトコーネフロアブル1,000倍（前日・年1回）を使用する。（9・10・11防除で1回のみ） ④散布間隔が14日以上空く場合は、中間に㊞ダイアジノン水和剤34 1,000倍（前日4回）を散布する。 バリダシン液剤5はさくらんぼ・ぶどう・ブルーベリー・りんご・なしに対して食品衛生法の残留基準値が最小レベルの0.01ppmである為隣接園はドリフトに十分気を付けて散布する。
7月中旬 （御坂白鳳 平穏白鳳 除袋直後）	ー	展着剤	10 mℓ	10,000 倍					
	M7	ベルクートフロアブル	50 mℓ	2,000 倍	500 ℓ	灰星病 ホモプシス腐敗病	前 日まで	3 回	
	3	アーデントフロアブル	50 mℓ	2,000 倍		アザミウマ類 シンクイムシ類	前 日まで	3 回	
月　　日									
9		水	100 ℓ						
7月下旬 （白鳳・あかつき 最終防除）	ー	展着剤	10 mℓ	10,000 倍	500 ℓ				①ハダニ類の発生が心配される場合は、マイトコーネフロアブル1,000倍（前日・年1回）を使用する。（9・10・11防除で1回のみ） ②散布間隔が14日以上空く場合は、中間に㊞ダイアジノン水和剤34 1,000倍（前日4回）を散布する。 ③早生紅錦香は除袋直後にオンリーワンフロアブル2,000倍（前日・年3回）にディアナWDG10,000倍（前日・年2回）を加用する。
	11	フリントフロアブル25	50 mℓ	2,000 倍		灰星病 ホモプシス腐敗病	前 日まで	3 回	
月　　日	3	アーデントフロアブル	50 mℓ	2,000 倍		シンクイムシ類 アザミウマ類	前 日まで	3 回	

10 8月上・中旬 （川中島・黄金桃 除袋直後） 月　　日	— 3 5 1	水 展着剤 オンリーワンフロアブル ディアナWDG ㊞ ダイアジノン水和剤34	100 ℓ 10 mℓ 50 mℓ 10 g 100 g	10,000 倍 2,000 倍 10,000 倍 1,000 倍	500 ℓ	灰星病 ホモプシス腐敗病 アザミウマ類 シンクイムシ類	前 日まで 前 日まで 前 日まで	3 回 2 回 4 回	①ハダニ類の発生が心配される場合は、マイトコーネフロアブル1,000倍（前日・年1回）を使用する。（9・10・11防除で1回のみ） ②散布間隔が14日以上空く場合は、中間に㊞ダイアジノン水和剤34 1,000倍（前日4回）を散布する。
11 9月上・中旬 （収穫後） 月　　日	— M1	水 展着剤（アビオンE） ICボルドー66D	98 ℓ 50 mℓ 2 Kg	2,000 倍 50 倍	500 ℓ	せん孔細菌病			①せん孔細菌の防除のため収穫後より2週間間隔で2～3回散布する。 ②ICボルドー66Dに変えて4-12式ボルドー又は、ICボルドー412 の30倍でも良い。 ③2回目以降の散布で隣接園の汚れが気になる場合にはムッシュボルドーDFの500倍に変えてもよい。散布時には保護材としてクレフノン水和剤を加用する。
12 10月上旬 月　　日	1	水 ㊞ ラビキラー乳剤	100 ℓ 500 mℓ	200 倍	200 ℓ	コスカシバ	休眠期	1 回	①腰から下の主幹部に洗い流すよう、手散布でたっぷり散布する。

※ ㊞は劇物です。購入の際は印鑑が必要です。

この防除基準はJAながの志賀高原にて作成されたものですので、地区内生産者・組合員以外の利用を固くお断りします。